伊福部隆輝

7

又伊

らしさ（ことよ！）における俳諧的にして技巧的生活を表現した芸術である。しかし今いふようにさうでありながら、漱石氏の洒脱ある気風に生きる芸術であり、豊島氏のそれが素朴的な香気とでも言はうか、一つの気分の芸術であるのに対して、佐佐木氏のそれは、匂ひと陰影との芸術である。ここに僕典雅なは三氏の個性の差を、やがては郷土性の差を見る。

茂索氏は京都の生れだといふ。僕は彼を新古だから——といふのではないが、いやそれとも、だからをつけた方がいゝか今人の子孫だと見る。無理だらうか？ 典雅ある気品、聰明なる理知、懦弱なる意志、技巧、彼を新古今人と言（それから）ふのは適つてゐるだらうか。「曲るほどの詩」一巻は僕にそう思はせる。さう思はせてさませない。

伊福部隆輝

伊福部隆輝

10/20 本郷森田製